

カリキュラム・マップ

環境学部の教育目的

自然環境と人間の関係を複合的な視点でとらえ、環境問題の解決と持続可能な社会への変革に貢献できる力の育成を目的とする。文理の枠を超えて幅広く知識を身につけ、現実の課題と結びつけながら活用できる能力と、環境正義の概念を理解し、自らの強みを活かしながら、対話と協働の関係を構築できるリーダーシップを養う。

学修成果

「学士(環境学)」を授与される学生は、以下のような能力を有する。

- ① 一つの立場、一つの考え方にとらわれず、様々な分野にまたがる視野・視点・視座から物事をとらえることができる。(「1. リベラルアーツの素養」、「3. 自己を理解し発展させる力」、「5. 他者を理解する姿勢と関連」)
- ② 自分の強みを活かしながら、他者の強みを引き出し、課題解決に向けて「対話」と「協働」を導くリーダーシップを発揮できる。(「3. 自己を理解し発展させる力」、「4. キャリア展望を確立する力」、「5. 他者を理解する姿勢」、「7. リーダーシップ」と関連)
- ③ 環境に関する知識やスキルを現場の実状と関連づけて実践的に活用することができる。(「2. 専門性」、「4. キャリア展望を確立する力」、「5. 他者を理解する姿勢」、「6. 表現力」、「9. 社会的実践力」と関連)
- ④ 環境課題に関する「不正義」に引き合い、より公正な社会を目指す「環境正義」の理念とその重要性を理解することができる。(「5. 他者を理解する姿勢」、「8. 国際性」、「9. 社会的実践力」と関連)
- ⑤ 環境学において自ら見出した専門性をもとに、環境問題の本質について考えることができる。(「1. リベラルアーツの素養」、「2. 専門性」、「3. 自己を理解し発展させる力」と関連)
- ⑥ 地球市民の一人として、グローバル・ローカルな環境課題の解決と持続可能な未来の実現に向けて、社会の変革に参画する意志を持つことができる。(「6. 表現力」、「7. リーダーシップ」、「8. 国際性」、「9. 社会的実践力」と関連)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

環境学部環境学科のカリキュラム				環境学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 一つの立場、一つの考え方にとらわれず、様々な分野にまたがる視野・視点・視座から物事をとらえることができる。	② 自分の強みを活かしながら、他者の強みを引き出し、課題解決に向けて「対話」と「協働」を導くリーダーシップを発揮できる。	③ 環境に関する知識やスキルを現場の実状と関連づけて実践的に活用することができる。	④ 環境課題に関する「不正義」に引き合い、より公正な社会を目指す「環境正義」の理念とその重要性を理解することができる。	⑤ 環境学において自ら見出した専門性をもとに、環境問題の本質について考えることができる。	⑥ 地球市民の一人として、グローバル・ローカルな環境課題の解決と持続可能な未来の実現に向けて、社会の変革に参画する意志を持つことができる。
リベラルアーツとしての環境学原論1	必修科目	○	1	環境学の多様なアプローチとその関係性を学びながら、教員と学生のそれぞれが環境問題の解決と持続可能な社会の実現に向けてどのような役割を担うのかを理解し、それぞれの学問分野の視点から論点や課題を理解できるようになる。	◎	○	○	◎		◎
リベラルアーツとしての環境学原論2	必修科目	○	1	環境学の多様なアプローチとその関係性を学びながら、教員と学生のそれぞれが環境問題の解決と持続可能な社会の実現に向けてどのような役割を担うのかを理解し、それぞれの学問分野の視点から論点や課題を理解できるようになる。	◎	○	○	◎		◎
環境科学入門1	必修科目	○	1	地球環境に関する基本的な知識と現代の環境問題を理解するための自然科学的な基礎を理解し、主要な論点や課題を科学的な視点から理解できるようになる。	◎		◎			
環境科学入門2	必修科目	○	1	地球環境に関する基本的な知識と現代の環境問題を理解するための自然科学的な基礎を理解し、主要な論点や課題を科学的な視点から理解できるようになる。	◎		◎			
環境フィールドスタディ1	必修科目	○	1	実際の地域課題を題材として、様々な学問分野の知識や視点がどのように関連しているかを現場で主体的に学び、多様な関係者と協働し課題に向き合う態度を培う。また、自らの役割を自覚し、リーダーシップを発揮して行動できるようになる。	◎	○	◎	○		○
気候変動とカーボンニュートラル	基幹科目(環境総合)	○	1~4	気候変動の緩和と適応に向けた多角的な視点を養い、持続可能なエネルギー利用や低炭素社会の実現に向けた実践的な知識とスキルを身につける。	◎	○	○	◎		○
生物多様性とネイチャーポジティブ	基幹科目(環境総合)	○	1~4	自然の損失を止め、回復へと向かう社会のあり方である「ネイチャーポジティブ」の考え方を理解し、それを実現するための知識や方法を身につけ、自然との共生に貢献できる力を身につける。	◎	○	○	◎		○
環境汚染・公害とわたしたちの社会	基幹科目(環境総合)	○	1~4	国内外のさまざまな汚染・公害問題の原因、影響、対策について、過去の歴史から学び、現状を理解し、持続可能な未来に向けた環境問題の解決策を考え、実践的な取り組みに貢献するための視野とスキルを身につけることができる。	◎	○	○	◎		○
資源循環とサーキュラーエコノミー	基幹科目(環境総合)	○	1~4	限りある地球資源を効率的に利用し、廃棄物を最小化するための循環型経済(サーキュラーエコノミー)について理解し、持続可能な経済システムに向けた実践的なアプローチを理解し、資源循環を促進するための知識とスキルを身につける。	◎	○	○	○		○
環境アセスメントと持続可能な開発	基幹科目(環境総合)	○	1~4	持続可能な開発を実現するための環境アセスメントの実践的なスキルを習得し、環境と経済のバランスを取るための意思決定プロセスを理解できるようになる。	◎	○	○	◎		○
環境データサイエンス	基幹科目(環境総合)	○	1~4	環境データの特徴や入手方法、解析の基本的なアプローチや言語・ソフトウェアの操作手法、さらに社会科学的環境データについてはその意義が理解できるようになる。	◎		○	△		
自然環境と人間社会	基幹科目(人間と社会)	○	1~4	自然環境と人間社会の歩んできた相互性に目を向け、学生一人一人が地球市民の一員として環境と向き合い、課題解決にコミットする次の感性を身につける。人類・環境・国際社会の相互性を自らの言葉で語れるようになる。	○	○		◎	○	◎
環境倫理	基幹科目(人間と社会)	○	1~4	現代の「環境問題」を人倫の理としての「倫理」から考え、各自の関心に応じてあらゆる領域で学びを深めていく際の基礎となる思考、視点を身につける。	○			◎	○	△
環境教育・ESDとシティズンシップ	基幹科目(人間と社会)	○	1~4	環境問題の解決や持続可能な社会の実現に向け、人間や社会が変容・変革していくための「教育・学習」のあり方について理解できるようになるとともに、自身が持続可能な社会づくりに参画していく力としてのシティズンシップを身につける。	○	○		◎	○	◎
環境法入門	基幹科目(人間と社会)	○	1~4	環境問題と法の関係について、初歩的な理解ができただけで、環境問題が生じた背景、特徴、解決すべき問題点、残されている法的課題などの全体像を理解することができる。また、環境問題の解決について、法的根拠を示しながら、自分の見解を示すことができる。	○	△		◎	○	○
環境政策・経済学入門	基幹科目(人間と社会)	○	1~4	環境経済学の知見を基に、環境問題の原因である市場の失敗とその是正策に関する理論を理解できるようになる。また、その理論的視座が現実の環境問題の理解にどのように役立つかを理解できるようになる。	○				○	○

環境学部環境学科のカリキュラム				環境学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 一つの立場、一つの考え方にとらわれず、様々な分野にまたがる視野・視点・視座から物事をとらえることができる。	② 自分の強みを活かしながら、他者の強みを引き出し、課題解決に向けて「対話」と「協働」を導くリーダーシップを発揮できる。	③ 環境に関する知識やスキルを現場の実状と関連づけて実践的に活用することができる。	④ 環境課題に関する「不正義」に「向き合い、より公正な社会を目指す」「環境正義」の理念とその重要性を理解することができる。	⑤ 環境学において自ら見出した専門性をもとに、環境問題の本質について考えることができる。	⑥ 地球市民の一人として、グローバル・ローカルな環境課題の解決と持続可能な未来の実現に向けて、社会の変革に参画する意志を持つことができる。
環境学のための社会調査法入門	基幹科目(人間と社会)	○	1~4	環境学におけるアプローチのひとつとしての社会調査について、その意義、背景、方法、思想に関する基本的な知識を身に付ける。あわせて、社会調査を読み解くためのリテラシーを獲得する機会となる。	○		○		○	
Environmental Issues in Japan and the World	基幹科目(人間と社会)	○	1~4	公害や汚染について、その背景となる社会経済システムとの関連から学び、気候変動や生物多様性損失といった地球規模の環境問題についても、地域的視点とグローバルな視点から考えられるようになる。	○			◎	○	◎
環境統計学基礎	基幹科目(科学と技術)	○	1~4	確率の数学的な取り扱いの基本や環境の数値解析においてみられる基礎的な確率論が理解できる。仮説検定の考え方や手続きを理解し、結果の読み取りと考察ができる。PCソフトを用いて確率論やデータ間の差異や関連を分析できる。	○	△			○	
環境物理学基礎	基幹科目(科学と技術)	○	1~4	環境問題の理解と解決に向けて必要な物理学の基本的な概念と原理を理解し、様々な自然現象を科学的にとらえる基礎を習得する。物理法則を環境問題に応用する姿勢を学び、環境現象を物理的に理解し、物理的な問題解決のアプローチを身につける。	○				○	
環境化学基礎	基幹科目(科学と技術)	○	1~4	環境中の化学物質の挙動とそのメカニズム、各種の対策技術の原理が理解できる。また、化学反応の基礎を理解し、その化合物合成の手段としての応用についての知識を得る。さらに自然界での物質変化や動態変化の根底としての化学平衡の原理を理解する。	○	△			○	
環境生物学基礎	基幹科目(科学と技術)	○	1~4	生物と環境の相互作用や生態系の構造・機能を理解するとともに、生物多様性の重要性や人間活動による影響について学ぶ。これにより、環境保全や生態系管理の現場でエビデンスに基づいた判断と行動ができるようになるための知識と科学的視点を養う。	○			○	○	◎
環境地学基礎	基幹科目(科学と技術)	○	1~4	地球の物理的・化学的プロセスと環境との関連を理解するための基礎的な知識を身につけ、地球システムにおける大気と海洋の動きについて理解できるようになる。	○				○	
環境デザイン・マネジメント	基幹科目(科学と技術)	○	1~4	日本および世界の環境デザイン・マネジメントの理論や歴史を理解し、具体的な事例に基づいて説明できるようになるとともに、組織の環境戦略を立案する基礎的な力を身につける。	○	○		○	○	◎
Natural Science of Triple Planetary Crisis	基幹科目(科学と技術)	○	1~4	気候変動・生物多様性損失・汚染の三重危機について自然科学的視点から理解し、科学的データの読み解き方と批判的思考、科学コミュニケーション能力を育成する。	○				○	○
地球化学	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	地球の化学的な構成要素とその変遷、ならびに地球の物質循環に関する基本的な原理とプロセスを理解し、地球の物質循環における化学的プロセスを科学的に探求するスキルを身につける。	○		○		◎	
材料化学	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	材料の構造、相構造、熱的性質、電気的などの基礎的な概念を理解し、持続可能な社会への変革を意識し、持続可能な材料の開発やエコマテリアルの設計について理解できるようになる。	○		○		◎	
陸上生物学	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	陸上生物と環境の相互作用について、物質循環やエネルギーの流れ、人間活動と関連付けて理解し、その知識を生物多様性の保全や持続可能な開発に活かすことができる。	○		○		◎	○
海洋生物学	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	サンゴ礁、干潟、深海など多様な海洋環境と、そこに生息するさまざまな生物について学ぶ。海洋生態系のつながりを深く理解し、持続可能な海洋利用や保全政策の立案に役立つ知識と視点を身につける。	○		○		◎	
生物生態学	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	自然環境の中で生物が生息・繁殖できる空間(ビオトープ)を創出・保全するための理論を理解し、持続可能な地域づくりにおけるビオトープの意義を理解できるようになる。また、生態系の構造や機能、動植物の生態、自然環境の保全と再生技術に関する知識をもとに、具体的なビオトープの設計や管理方法を身に	○	○	○		◎	
分子生物学	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	分子レベルから生命現象を理解し、バイオテクノロジー、遺伝子工学、農業、医療などの応用分野における、実践的な知識を身につける。	△		○		◎	△
微生物学	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	微生物の多様な機能と環境、産業、医療分野での応用について深い理解を得て、環境や人間社会における微生物の役割を科学的に考察できるようになる。	○	○	○		◎	
環境毒性学	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	環境問題全体の把握から、毒性学の基礎、化学物質汚染の事例を学び、化学物質の構造や物性がその物質の環境動態および毒性を支配していることを理解する。	○		○		◎	
熱力学	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	熱力学の基本的な法則や原理の意味やその数学的な表現が理解できる。気候変動やエネルギー問題に取り組むうえでの熱力学的な基本が身につく。			○		◎	△
地球流体力学	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	地球環境に特有の力学プロセスを学び、気候システムの理解を深め、気候変動や異常気象といった地球環境問題の解析に役立つ理論を習得する。			○		◎	
気候学	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	地球の気候システムの基本構造とそのプロセスを理解し、気候システムを科学的に捉えることができるようになる。気候変動が人間社会や環境に与える影響を科学的に考察できるようになる。	○		○		◎	
科学史・科学哲学	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	科学の発展の歴史や科学的探求の哲学的基盤を理解し、科学の役割や方法論について考察できるようになる。科学の本質とその社会的役割を批判的に考える能力を養い、科学的思考の発展や限界を理解する力を培う。	◎			○		○
地球環境史	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	1)地球誕生からの様々な環境変動の概要を時間スケール・空間スケールに着目して説明できる。2)歴史時代以降の気候変動の実態と要因、および気候変動が生態系や社会に与えた影響について説明できる。3)現在の環境問題と関連付けて環境史を理解し、近未来の地球環境を見据え、持続可能な社会を実現するための方策について議論できるようになる。	○		○		◎	○
環境化学実習	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	環境サンプルの採取と測定を経験することで、環境現場観測の進め方や基本的な分析方法を習得する。		△	○		◎	

環境学部環境学科のカリキュラム				環境学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 一つの立場、一つの考え方にとらわれず、様々な分野にまたがる視野・視点・視座から物事をとらえることができる。	② 自分の強みを活かしながら、他者の強みを引き出し、課題解決に向けて「対話」と「協働」を導くリーダーシップを発揮できる。	③ 環境に関する知識やスキルを現場の実状と関連づけ、実践的に活用することができる。	④ 環境課題に関する「不正義」に「向き合い、より公正な社会を目指す」「環境正義」の理念とその重要性を理解することができる。	⑤ 環境学において自ら見出した専門性をもとに、環境問題の本質について考えることができる。	⑥ 地球市民の一人として、グローバル・ローカルな環境課題の解決と持続可能な未来の実現に向けて、社会の変革に参画することができる。
環境生命実習	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	現在問題になっている環境要因が生物にもたらす影響について、各自が独自の視点で観察と実験をおこない、考察できるようになる。また、分子生物学における様々な技術について、理解を深めるとともに、得られたデータを統計的に処理し、客観的に評価する手法を身につける。		○	◎		◎	
環境数値解析	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	環境分野における数値解析の各種方法とその数学的背景を理解できる。環境データの特徴と研究の目的に応じて分析手法やその計算のためのソフトウェアを適切に選択し、またその数値解析を実行できる。		△	○		◎	
気象学実習	発展科目(自然科学領域)	○	2~4	観測データの活用や解析スキルを身につけ、科学的データ解析に基づいて結論を導き出す力を身につける。気象学・気候学に関する基礎知識の習得を促進することを目標とする。			◎		◎	
法学概論	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	各法律の成り立ちと仕組みを理解し、説明することができ、また基本的な法的思考力を身につけ、社会問題に対し法的な観点から解決策を提示することができる。	○			◎	○	○
国際環境法	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	国際的な環境問題について法的な観点から、考察でき、また各環境条約の全体像を把握し、その背景、特徴、解決すべき問題点、残されている課題を理解し、説明することができる。さらに、国際的な環境問題に対し、法的根拠に基づいて自分の見解を提示することができる。	◎		○	○	◎	◎
環境行政法	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	環境行政法の基本的な考え方と構造を学び、現代社会における可能性と課題を考えることができるようになる。			○	◎	◎	
環境ガバナンス	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	社会が環境との関係を調整、管理するための能力や仕組みを理解し、環境課題の解決と持続可能な社会づくりに向けて、多様な市民が積極的に関わり合いにも取り組む仕組みについて、理解を深める。	◎		○	○	◎	○
市民参加と合意形成	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	公的な意思決定における市民参加ならびに合意形成の目的と役割について説明することができ、政策課題に対応した適切な市民参加と合意形成の手法について構想し説明することができる。	○	◎	○	○	◎	○
環境と国際政治	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	国際政治の具体的な成果から様々な課題を検討し、グローバルシティズンとしての自身のあり方についても考えられるようになる。	○		○	○	◎	○
気候・エネルギー政策論	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	気候変動を政治の課題としてとらえ、国際社会や各国の気候・エネルギー政策動向を理解し、課題と解決の可能性について考察し検討することができるようになる。	○		○	○	◎	○
経済学概論	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	市場における需要と供給の作用と商品の価格や取引数量の関係性および、消費者や生産者の厚生、政府の様々な規制との関連性を考えられるようになる。	○				○	○
環境経済学	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	環境問題のメカニズムにたいして、経済学的にアプローチし、持続可能な経済システムについて理解できる。現代の環境経済学を相対化する視点を身につける。	○		○	○	◎	○
環境と国際経済	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	様々な環境課題について、国際経済の観点から検討し、持続可能な社会の実現に向けた課題と可能性について考えられるようになる。貿易や、労働・資本の国際間移動等について、基本的構造を理解し、向き合うべき問題を見出すことができるようになる。	○		○	○	◎	○
サステナビリティ経営論	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	サステナビリティ経営について、基本的な理念と現状を理解する。ESG投資やSDGsとの関わりや企業と社会の相互関係にもとづく今後の課題について理解する。	○		○	○	◎	○
環境コミュニケーション	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	現代社会が直面する環境問題に対して取組がどのように広がっているか、コミュニケーションの視点から理解し、環境コミュニケーションとしての意義と課題について理解する。	○		○	○	◎	○
環境社会学	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	様々な環境問題を環境社会学のアプローチを用いて考え、環境社会学の基本的な理論的枠組みを理解し、それらを用いて事例を分析することができるようになる。	○		◎	◎	◎	○
環境社会調査法実践	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	環境学領域における具体的な調査の企画、実施、データ分析、報告書作成を経験しながら、実践的スキルを身につける。環境課題の理解と解決につながる社会調査を行うための理解と技能を確立する。			◎			
環境と人権	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	環境と人権の結びつきの実相とその構造を理解し、よりよい環境で生きることができる社会のあり方について考えられるようになる。また、環境をめぐる人権課題に対し、互いに人間の尊厳を守り合うことのできる社会と自己の在り方について議論できるようになる。	○		○	◎	◎	○
環境アクションと市民社会	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	市民のひとりとして環境アクションを企画し、実践し、広げるために必要なスキルを培う。市民社会に根ざす環境アクションを体験し、活動を行うことができるようになる。	○		○	○	◎	○
持続可能な開発と国際協力	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	20世紀から続く課題でもある《持続可能な開発》と《国際協力のあり方》について、開発学・地理学を軸としながら人類・保全生態学・国際関係学・環境学などの最新の成果を参照しつつ、地球社会の課題を自らの問題としてとらえる次の知的土壌を養う。とくにSDGsの理念を理解し、国際社会の実践について地球社会の課題に向けて、自分なりの解決策やコミットメントへの発見・気づきを得る。	◎	◎	○	○	◎	◎
エシカル消費論	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	「エシカル(倫理的)な消費のあり方を多角的にとらえる知識と視点を身につける。環境にくわえ、社会、人権、ガバナンスといった観点からも、消費者としての自身との関係性を理解するとともに、消費行動の具体的な選択肢を知り、問題の本質的解決につながる社会変革の道筋を理解する。	○		○	○	◎	○
環境とメディア	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	メディアが、環境問題にどのように向き合い、その解決と持続可能な社会づくりの中でどのような役割を果たしてきたか、また今後果たしていくことができるか、具体的事例をもとに理解する。フェイクニュースに代表される現代的課題も扱い、メディアリテラシーを身につける。	○		○	○	◎	○

環境学部環境学科のカリキュラム				環境学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 一つの立場、一つの考え方にとらわれず、様々な分野にまたがる視野・視点・視座から物事をとらえることができる。	② 自分の強みを活かしながら、他者の強みを引き出し、課題解決に向けて「対話」と「協働」を導くリーダーシップを発揮できる。	③ 環境に関する知識やスキルを現場の実状と関連づけて実践的に活用することができる。	④ 環境課題に関する「不正義」に「向き合い、より公正な社会を目指す」「環境正義」の理念とその重要性を理解することができる。	⑤ 環境学において自ら見出した専門性をもとに、環境問題の本質について考えることができる。	⑥ 地球市民の一人として、グローバル・ローカルな環境課題の解決と持続可能な未来の実現に向けて、社会の変革に参画する意志を持つことができる。
環境正義のための紛争解決学	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	紛争解決学が蓄積してきた理論と、実社会における歴史や具体的事例から、環境問題や持続可能な社会づくりにおける紛争の構造を理解し、その解決について実践的に考えられるようになる。	○		○	○	◎	○
社会変革の環境教育学・ESD論	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	環境教育学・ESD論において発展してきた理論を理解する。自身でも教育プログラムを体験・試行することで、環境教育学・ESD論における研究・実践双方の視点を養う。	○	○	◎	○	◎	◎
参画と対話のファシリテーション	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	合意形成を目的とした会議の場を設計し、議論のルールを設定、プログラムを作成し、これにのって会議を運営することができる。また、参加者の相互理解や合意を促すためのファシリテーション技法を用いることができる。	○	◎	○	○	◎	○
共創のコーディネーション	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	コーディネーションについて学び、対話と協働を促しながらパートナーシップを育み、連携・協働のハブとなるコーディネーターのあり方について、理論と事例の双方から理解を深める。	○		○	○	◎	○
環境心理学	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	環境心理学の成立過程や主な理論・方法論を学び、様々な環境問題に直面する社会のなかで、わたしたちが直面する現状と、未来を切り拓く方策を、心理学の視点から、理解する。	○		○	○	◎	○
地誌学概論	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	自然地理と人文地理の手法や成果を参照しつつ、地域の個性と地理的事象を総合的に明らかにする。地理学と隣接するさまざまな分野の知見と成果を統合することで、「地誌学」を個別トピック・オリエンティッドの《地理的リテラシー教育手段》として捉えなおし、地誌研究の秘める応用力の高さを学習する。	◎	○	◎	○	◎	○
環境文学	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	環境文学研究の展開を理解し、社会科学・自然科学のアプローチだけでは解決できない環境問題に、文学がどのような関わりを持つことができるか、議論し、理解を深める。	○		○	○	◎	○
環境とアート	発展科目(人文・社会科学領域)	○	2~4	環境アート研究の展開を理解し、社会科学・自然科学のアプローチだけでは解決できない環境問題に、アートがどのような関わりを持つことができるか、議論し、理解を深める。	○		○	○	◎	○
地理学概論	発展科目(環境総合領域)	○	2~4	地理学の分野横断性や学際性を活かし、世界の自然環境・民族・宗教・先住民・紛争・ジェンダーなどのグローバルな現代的課題について、世界各地のさまざまな環境問題と社会課題のケーススタディを学習し、地理学的な解決方法を導き出す能力を養う。	◎	○	◎	○	◎	○
都市環境学	発展科目(環境総合領域)	○	2~4	都市の環境問題を科学的に理解し、その原因と影響を説明できるようになる。持続可能な都市計画や政策の理論と実践を理解し、具体的な解決策や改善策を提案する力を養う。	○	○	◎	○	◎	◎
資源循環学	発展科目(環境総合領域)	○	2~4	資源の循環型社会を実現するための理論と技術を理解する。資源の持続可能な利用に向けた政策や法規制、国際的な動向についても学び、資源循環を促進するための技術革新や社会的枠組みを考えられるようになる。	○		○	○	◎	○
エネルギー科学	発展科目(環境総合領域)	○	2~4	エネルギーの科学的理解を通じて、持続可能な社会の実現に向けた技術革新や政策立案に貢献するための知識を身につける。	○		○	○	◎	○
測量学	発展科目(環境総合領域)	○	2~4	地理情報システム(GIS)やコンピュータソフトウェアを用いたデータ処理と可視化についても学習し、測量データを効率的に活用する技術を習得する。GISの基本技術を身につけ、環境の複合的な見地からの管理において役立つ基盤的な能力を習得する。			◎			
食品科学	発展科目(環境総合領域)	○	2~4	食品の安全性評価や食品衛生の管理手法、食品法規や規制について、消費者の健康保護に貢献するための知識を身につける。食品の科学的理解を深め、食品産業や栄養管理の分野での実践的な知識と技術を習得し、持続可能な食品供給と消費に貢献する能力を育む。	○		○		◎	
環境フィールドスタディ2	実践科目	○	2~4(2年次推奨)	実習全体の企画・運営にも関わり、初年次生の学びを促す役割を担い、現場理解を深め、対話や協働の力としてのコミュニケーション力、状況分析力、課題解決のための創造力、実践力等を養う。	◎	○	◎	○		○
環境リーダーシップEL1	実践科目	○	1	自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感し、自律的に学習していくための専門知識やスキルの必要性を学ぶ。様々な視点から自分の経験を振り返り、チーム内での相互フィードバックや対話を通じて、自分自身や人生にとって価値ある実践的な学びを体験する。	○	◎				○
環境リーダーシップEL2	実践科目	○	1	「地域特有の環境課題」をグループで解決するプロセスを通じて、全員発想型リーダーシップを身につける。解決策を検討するプロセスで生じるグループ内や他のステークホルダーとのコンフリクト、振り返り、および相互フィードバックを通じて、他者に影響力を発揮するリーダーシップを習得する。	○	◎				○
環境リーダーシップEL3	実践科目	○	2~4(2年次推奨)	(1)リーダーシップが身につくメカニズムの理解(2)リーダーシップを開発する方法の理解(3)「人の成長を促す関わり方」に関する理論を理解し、ファシリテーションやコーチング等の具体的な関わり方の方法・スキルを身につける。	○	◎	◎	○		◎
環境リーダーシップEL4	実践科目	○	2~4(2年次推奨)	自己の内面にある思考・感情や自己概念に着目し、他者の視点も参考にしながら、「自分らしい」リーダーシップを構築する。これまでのリーダーシッププログラムで学んだ論理思考をさらに複雑な状況にも適応させ、状況を改善する方法も学び、これにより、自信を持ってリーダーシップを発揮できる力を身につける。	○	◎	◎	○		◎
短期フィールドワークA	実践科目	○	2~4	主体的な活動を通して、実践を目的とした対話や、異なる立場の人々との協働を通して、チームとして環境課題に取り組むために必要なコミュニケーション力、状況分析力、課題解決のための創造力、実践力を養う。	○	○	◎	○		◎
短期フィールドワークB	実践科目	○	2~4	主体的な活動を通して、実践を目的とした対話や、異なる立場の人々との協働を通して、チームとして環境課題に取り組むために必要なコミュニケーション力、状況分析力、課題解決のための創造力、実践力を養う。	○	○	◎	○		◎
短期フィールドワークC	実践科目	○	2~4	主体的な活動を通して、実践を目的とした対話や、異なる立場の人々との協働を通して、チームとして環境課題に取り組むために必要なコミュニケーション力、状況分析力、課題解決のための創造力、実践力を養う。	○	○	◎	○		◎
長期フィールドワークA	実践科目	○	2~4	主体的な活動を通して、実践を目的とした対話や、異なる立場の人々との協働を通して、チームとして環境課題に取り組むために必要なコミュニケーション力、状況分析力、課題解決のための創造力、実践力を養う。	○	○	◎	○		◎

環境学部環境学科のカリキュラム				環境学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 一つの立場、一つの考え方にとらわれず、様々な分野にまたがる視野・視点・視座から物事をとらえることができる。	② 自分の強みを活かしながら、他者の強みを引き出し、課題解決に向けて「対話」と「協働」を導くリーダーシップを発揮できる。	③ 環境に関する知識やスキルを現場の実状と関連づけて実践的に活用することができる。	④ 環境課題に関する「不正義」に付き合い、より公正な社会を目指す「環境正義」の理念とその重要性を理解することができる。	⑤ 環境学において自ら見出した専門性をもとに、環境問題の本質について考えることができる。	⑥ 地球市民の一人として、グローバル・ローカルな環境課題の解決と持続可能な未来の実現に向けて、社会の変革に参画する意志を持つことができる。
長期フィールドワークB	実践科目	○	2～4	主体的な活動を通して、実践を目的とした対話や、異なる立場の人々との協働を通して、チームとして環境課題に取り組むために必要なコミュニケーション力、状況分析力、課題解決のための創造力、実践力を養う。	○	○	◎	○		◎
長期フィールドワークC	実践科目	○	2～4	主体的な活動を通して、実践を目的とした対話や、異なる立場の人々との協働を通して、チームとして環境課題に取り組むために必要なコミュニケーション力、状況分析力、課題解決のための創造力、実践力を養う。	○	○	◎	○		◎
短期ワークエクスぺリエンスA	実践科目	○	2～4	自治体やNPO/NGO、あるいは企業での実務経験を通して、環境問題に対する理解を深め、実践的な協働関係の構築の手法や問題解決の能力を身につける。	○	○	◎	○		◎
短期ワークエクスぺリエンスB	実践科目	○	2～4	自治体やNPO/NGO、あるいは企業での実務経験を通して、環境問題に対する理解を深め、実践的な協働関係の構築の手法や問題解決の能力を身につける。	○	○	◎	○		◎
長期ワークエクスぺリエンスA	実践科目	○	2～4	自治体やNPO/NGO、あるいは企業での実務経験を通して、環境問題に対する理解を深め、実践的な協働関係の構築の手法や問題解決の能力を身につける。	○	○	◎	○		◎
長期ワークエクスぺリエンスB	実践科目	○	2～4	自治体やNPO/NGO、あるいは企業での実務経験を通して、環境問題に対する理解を深め、実践的な協働関係の構築の手法や問題解決の能力を身につける。	○	○	◎	○		◎
プロジェクト実習A	実践科目	○	2～4	環境問題の解決や持続可能な社会の実現を指向した実践的なプロジェクトの計画と実施に取り組み、他者と協力して行動する力を身につける。ディスカッションや役割分担を通してチームビルディングのノウハウやリーダーシップ、コミュニケーション能力を養う。	○	○	◎	○		◎
プロジェクト実習B	実践科目	○	2～4	環境問題の解決や持続可能な社会の実現を指向した実践的なプロジェクトの計画と実施に取り組み、他者と協力して行動する力を身につける。ディスカッションや役割分担を通してチームビルディングのノウハウやリーダーシップ、コミュニケーション能力を養う。	○	○	◎	○		◎
インタープリテーション実習	実践科目	○	2～4	インタープリテーションの考え方や技術を、実践を通じて身につける。教育的手法としてのインタープリテーションについて、実際に自ら企画、試行し、インタープリターとして活躍するための基礎を培う。	○	○	◎	○		○
Environmental Interpretation in English	実践科目	○	2～4	インタープリテーションの考え方や技術を、実践を通じて身につける。教育的手法としてのインタープリテーションについて、実際に自ら企画、試行し、インタープリターとして活躍するための基礎を培う。	○	○	◎	○		○
野外活動実習	実践科目	○	2～4	自然の中で他者と協力して活動を実施し、リスクを認識・管理しつつ、自然の価値を享受し、参加者の学び合いを促すための、具体的な技能を身につける。	○	○	◎	○		○
専門演習1	卒業論文・プロジェクト関係科目	○	3	卒業論文・プロジェクト演習に必要な専門分野の知識の習得、分野特有の視点の涵養や、必要に応じて、社会調査の方法や自然科学的実験技術、および解析の方法を身につける。	○	○	○	○	◎	◎
専門演習2	卒業論文・プロジェクト関係科目	○	3	より学生自身が興味のある分野・領域を見つけ、専門分野の視点から問題を分析できようになる。また、演習を通して、論文の書き方やレポートのまとめ方を専門分野にあった手法に基づいて身につける。	○	○	○	○	◎	◎
卒業論文・プロジェクト演習1	卒業論文・プロジェクト関係科目	○	4	学生自身が興味、関心の的を絞りながら、研究、あるいはプロジェクトのテーマを定める過程において、背景となる論文や資料を収集、分析し、具体的な研究方法、プロジェクトの実施方法を決定することができる。	○	○	○	○	◎	◎
卒業論文・プロジェクト演習2	卒業論文・プロジェクト関係科目	○	4	決定した学生自身の卒業論文テーマ、あるいは卒業プロジェクトをもとに研究の遂行、あるいはプロジェクトの実施を行い、卒業論文、あるいはプロジェクト実施報告書としてまとめることができる。	○	○	○	○	◎	◎
卒業論文	卒業論文・プロジェクト関係科目	○	4	4年間の学びの集大成としておこなう科決定した学生自身の卒業論文テーマ、をもとに研究の遂行し、卒業論文としてまとめることができる。	○	○	○	○	◎	◎
卒業プロジェクト	卒業論文・プロジェクト関係科目	○	4	決定した学生自身の卒業プロジェクトをもとにプロジェクトの実施を行い、プロジェクト実施報告書としてまとめることができる。	○	○	○	○	◎	◎
環境コロキウム1	卒業論文・プロジェクト関係科目	○	4	それぞれの卒業研究や卒業プロジェクトの内容を理解し、それぞれが孤立したものではなく相互に関連していることを認識しつつ、自身の研究・実践を振り返ることで、多角的な視点を身につける。	◎	◎		◎	○	◎
環境コロキウム2	卒業論文・プロジェクト関係科目	○	4	自身の研究・実践を批判的、多角的に省察し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みとしてのビジョンを集合的に描くことができるようになる。	◎	◎		◎	○	◎
留学レポートセミナー	卒業論文・プロジェクト関係科目	○	4	留学先での学業、文化的体験、生活経験を整理し、他者に効果的に伝える方法を身につける。海外大学と立教大学の教育プログラムの違いを環境学の視点から分析し、自己成長とキャリア形成に対する意識を深める。	○			○	◎	◎
大学への数学	導入科目		1～4(1年次推奨)	大学レベルの数学を学ぶための基礎を身につける。代数、幾何、微積分の基礎をカバーし、これらの概念を復習しながら、大学で必要とされる数学的な思考力と問題解決能力を養成する。	○					
大学への物理学	導入科目		1～4(1年次推奨)	物理学の基礎知識を身につけ、基礎的な数式の扱い方や物理的な問題解決の方法を理解する。	○					
大学への化学	導入科目		1～4(1年次推奨)	化学の基本的な概念を理解し、物質の性質や反応を化学的に解釈する能力を身につける。	○					

環境学部環境学科のカリキュラム					環境学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)					
科目名	科目区分	主要授業科目	配当年次	科目の学修成果	① 一つの立場、一つの考え方にとられず、様々な分野にまたがる視野・視点・視座から物事をとらえることができる。	② 自分の強みを活かしながら、他者の強みを引き出し、課題解決に向けて「対話」と「協働」を導くリーダーシップを発揮できる。	③ 環境に関する知識やスキルを現場の実状と関連づけて実践的に活用することができる。	④ 環境課題に関する「不正義」に付き合い、より公正な社会を目指す「環境正義」の理念とその重要性を理解することができる。	⑤ 環境学において自ら見出した専門性をもとに、環境問題の本質について考えることができる。	⑥ 地球市民の一人として、グローバル・ローカルな環境課題の解決と持続可能な未来の実現に向けて、社会の変革に参画する意志を持つことができる。
大学への生物学	導入科目		1～4(1年次推奨)	生命現象を分子レベルで理解するための知識と論理的な思考力を身につける。	○					
自然科学のための数学	導入科目		1～4(1年次推奨)	学部レベルの自然科学分野の内容を学ぶ学生が基本的な数学の実用的な知識を身につける。抽象的な数学的知識を実際の問題に応用できるようになる。	○					
日本史	関連科目		1～4	時代のとらえ方や重要事項、研究動向などを理解し、史料の調べ方、文献の探し方などを身につけ、日本史に関する専門性を高める。	○					
世界史	関連科目		1～4	歴史の全体像を俯瞰することによって、歴史的なものを見方を身につけ、現代の世界に対する多様な視点を獲得する。	○					
理科総合実験	関連科目		3～4	物理、化学、生物、地学の各分野の実験原理を理解し、実験スキルを身につけることができる。	○					